

最近の対話活動の状況と 「対話の場」振り返り（総括）の 進め方（案）について

2023年12月11日

原子力発電環境整備機構

最近の対話活動：「高レベル放射性廃棄物の文献調査に関するシンポジウム」（神恵内村）

昨年度（2022年5月）に続き、「対話の場」主催で専門家を招いたシンポジウムを開催

【開催日】 2023年11月25日（土） 13:30～17:00

【場 所】 神恵内村漁村センター

【専門家】 岡村 聡氏（北海道教育大学名誉教授:研究分野「地質学」）

【進 行】 ファシリテーター:佐野 浩子氏、モデレーター:大浦 宏照氏
（「対話の場」ファシリテーター）

【内 容】 ①地層処分に関する説明（NUMO：技術部部長 兵藤 英明）
②岡村名誉教授による講演「神恵内村周辺の地質と地層処分問題」
③質疑応答（岡村名誉教授・NUMOからの見解説明）

【参加者】 神恵内村民の皆さま/55名



岡村名誉教授



技術部部長兵藤

■ アンケート結果及び主なご意見（回答数=45名）

- シンポジウムについて、「とても役立った :23名(前回19名)」、
「まあ役立った:21名(前回30名)」、「どちらともいえない:1名(前回7名)」
＜ご意見（一部抜粋）＞
- 必ず日本のどこかでやらなければいけない事業。神恵内村と寿都町がファーストペンギンとなって全国で議論が広がることを期待する。
- 専門家の異なる視点での意見も聞けて良かった。今後も勉強する機会を設けてほしい。



当日の会場の様子

<主なご意見>

- 総括というよりも、多様な在り方を丁寧に分析することが大切ではないか。多様な場があり、自らの選択を行っていく。こうした中で個々の意思が醸成される。どうやってこの場を広げていくことができるのかというのが大事なポイントではないか。
- 第三者専門家にアドバイスをもらうということだが、現場を見ていただいた上でのアドバイスなのか。これまでの記録を見てのアドバイスなのか。
- 地域の“多様な”というところは、くり返したが大事にして欲しい。あえて参加されていない方なども含めて。
- 地域の多様な声を集めて、透明性も担保するとのことだが、ヒアリングに委員も同行すべきと前回提案した。審議会の時間では不十分である。第三者専門家の意見聴取は全て記録を公表すべきである。
- 「対話の場」総括の中には、地層処分に知見のある技術者も含めるべきではないか。技術者としてもどのように振る舞うべきか学ぶ場でもある。
- 第三者専門家について、推薦者委員の数があまり多くなく、専門家の多様性が担保できていないのではないか。例えば審議会委員の兼任を認めることや、過去の審議会委員に入っていただくなど、方法を検討していただきたい。
- 「対話の場」を中心ということだが、他に何が含まれるのか。
- 対象や方法を定める段階でも第三者専門家の意見を伺ってはどうか。
- 大浦さんがおっしゃっていた、誰がどう決めるかが大事。これが明確になっていないところがある。
「対話の場」総括でいえば、誰にどう聞くかがブラックボックスになっている。

【第40回放射性廃棄物WGでの位置づけと目的の確認】

②地域対話の深化

- **最終処分場の選定プロセスを進める上で、地域の理解は大前提。**中でも調査実施自治体の住民との対話活動は重要。寿都町と神恵内村では、文献調査と並行して「対話の場」をはじめとする地域対話を実施。
 - **今後、他地域で文献調査が実施される際も同様の対話活動を行うことを想定し、これまでの取組を総括することとする。**
-
- ・ **地域対話のあり方は、地域の実情に応じて検討していくことが大前提ではあるが、まずは、北海道2自治体における経験・教訓をまとめるべく、町村やファシリテーターの御意見、住民の方々（「対話の場」（寿都町・神恵内村）や「町の将来に向けた勉強会」（寿都町）の参加者等を想定）の声をもとに、振り返りを実施。**
 - ・ その結果については、NUMOの自己評価に完結させるのではなく、2自治体とは直接の関係性のない、地域対話の専門家などの御意見も伺いながら、客観性を確保しつつ、総括作業を進めていくこととしたい。総括に当たっては、「対話の場」の運営方針（以下参照）も参考に取り組むこととしたい。
 - ・ また、こうした検討状況については、放射性廃棄物WGにおいて、国・NUMOから御報告し、御意見を賜りながら、透明性あるプロセスの中でとりまとめていきたい。

- 
- **調査実施自治体内外において、地域対話を進める際の参考となるよう「対話の場」等に関する経験や教訓、留意事項を整理する。**
 - **寿都町と神恵内村での「対話の場」を中心とした取組みを振り返る。**
 - **地域の多様な声を集めて、第三者専門家から助言・アドバイスを得る。**

- 第1回特定放射性廃棄物小委員会（2023年10月13日）でいただいた「対話の場」振り返り（総括）に関するご意見を集約し、第三者専門家に「進め方（案）」について個別ヒアリングを実施。その助言・アドバイスを踏まえて対象や方法を改善。
- 国・NUMOによる取組を進める前に、「進め方（案）」についてご議論をいただき内容の充実を図りながら進めていく。

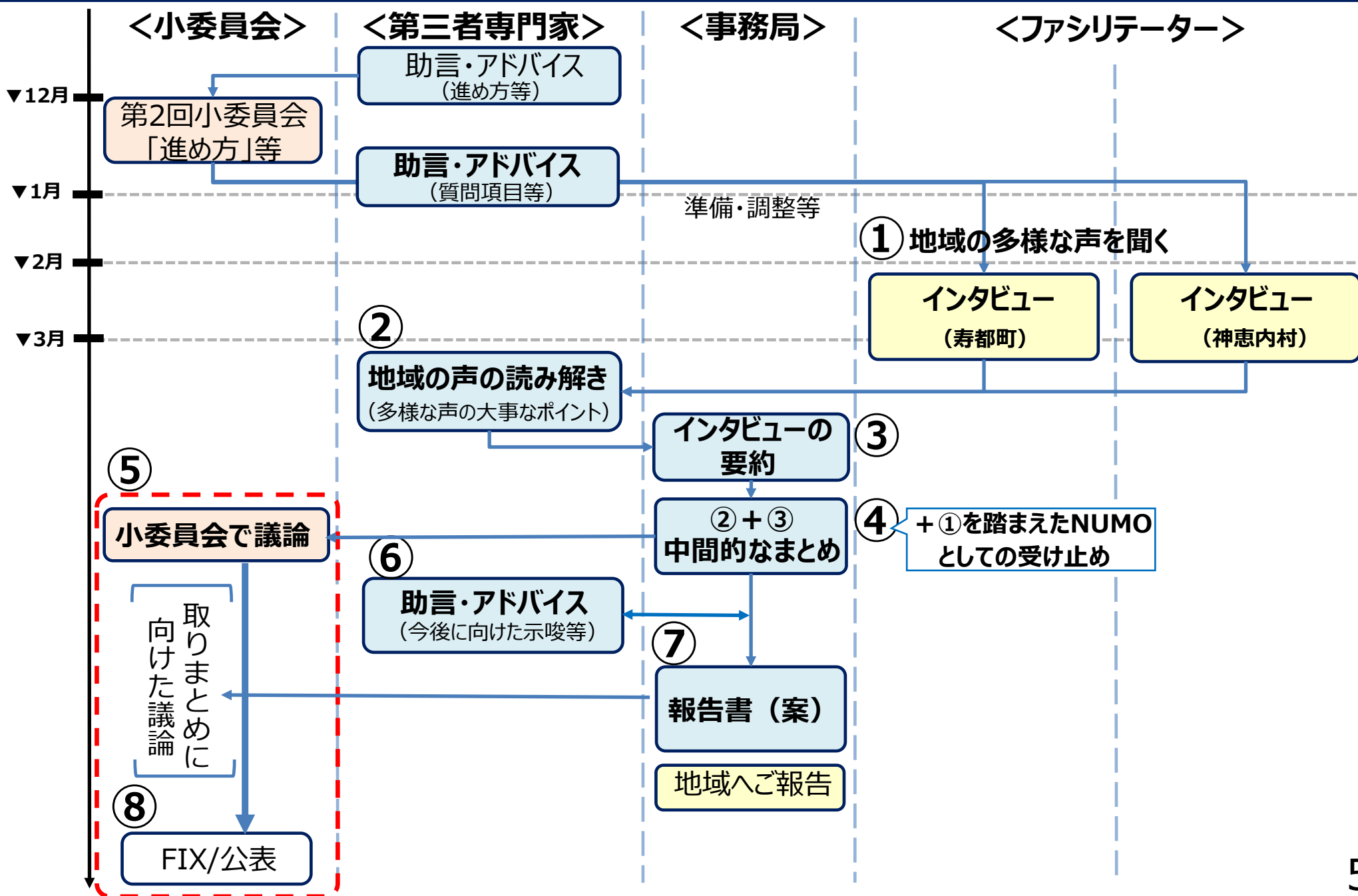
【主なご意見】

（１）今後の進め方について

（２）第三者専門家の多様性の確保について

（３）地域の多様な声の集め方について

(1) 今後の進め方について



(2) 第三者専門家の多様性の確保について

- 第三者専門家の多様性についてのご意見を踏まえ、追加候補を検討した結果、地質環境（技術系）や対話方法論に知見のある2名の専門家を追加。

◎ 第三者専門家の位置づけ

地域の多様な声を集めて、国・NUMOから小委員会へご報告することから、客観性を確保し、また2町村の経験を今後の地域対話を進める際の参考とするため、地域対話や最終処分事業等に知見のある第三者専門家に助言・アドバイスを得るべく協力を依頼する。

◎ 第三者専門家の役割

- 「進め方（案）」、地域の声の読み解き、小委員会での議論を踏まえた今後の地域対話にむけた示唆等に関して、助言・アドバイス。
- （希望者は）インタビュー時のオブザーバーとして同席。

【現内諾】

旧放射性廃棄物WG委員より推薦いただいた科学技術政策、環境経済学、ファシリテーター等の各分野の専門家**5名**

【追加】

ご意見を踏まえ**技術系専門家1名、過去の審議会委員かつ対話方法論に詳しい専門家1名を追加、計7名**

(3) 地域の多様な声の集め方について

- 「地域の声を誰が、どうやってお聞きするのか」についてのご意見を踏まえ、地域でのインタビューの進め方や対象となる方々について、具体的な取組方法を整理。

【進め方】

- ① **「対話の場」に関与した方々を中心に、事業の賛否にかかわらず、ファシリテーターがインタビュー役となり、グループインタビュー形式にて地域の多様な声を丁寧にお聞きする。**
※個別インタビューの希望やフォローアップが必要な場合には、NUMO職員が丁寧に聞き取りを実施
- ② **場の設置における「大切なポイント5項目」+「実際の活動」を振り返り、ご意見を伺う。**
質問項目は、インタビュー実施前に第三者専門家に監修をいただく。
- ③ 公表前には、**地域の方々にご報告する機会**を設ける。

	寿都町・神恵内村
インタビュー役	ファシリテーター ※個別インタビュー・フォローアップは職員2名で訪問
インタビューの流れ	① 趣旨のご説明 ② 「対話の場」の経緯等の振り返り（NUMOより情報提供） ③ 5項目ほか振り返り、ご意見を伺う
ロジ・記録等	民間専門調査会社
日程調整・フォロー等	NUMO交流センター

(参考) 場の設置における「大切なポイント5項目」

① 参加者の意向を尊重しているか

⇒「対話の場」は、参加者の皆さまが主体であり、その意志を尊重。

② (地層処分事業受入の) 合意形成の場ではない

⇒まちづくりの観点も踏まえて、住民の皆さま一人ひとりの地層処分事業に対する考え方や、向き合い方の検討に資する情報提供を行い、議論をいただく場。

③ 公平性、中立性の担保

⇒事業への賛否によらず（片寄らず）、情報提供や意見交換ができる環境づくりを行う。

④ 透明性、公開制の確保

⇒透明性・公開制の確保と、参加者は自由闊達に議論できる環境の両立を目指す。

⑤ 議論の内容の共有

⇒「対話の場」での説明や議論の内容については、広く住民の皆さまにもお知らせして、共有する。

＋ その他の気づきや伝えたいこと

①～⑤に即した

「実際の活動」を振り返り

それぞれについてご意見を伺う

✓ 大切なポイントに沿って、実施できていましたか？

✓ 良かった点は？、足りなかった点は？

✓ もっとこうできた、もっとこうしてはという点は？

追加：「対話の場」がどのような目的で開かれ、どのような性格の会議として、捉えていましたか

＊「対話の場」の目的や意味、地域でどう理解されていたのか。

地域の多様な声の集め方について（寿都町・神恵内村）

- 寿都町「対話の場」会員、神恵内村「対話の場」委員を中心に、旧参加者や傍聴者も含めてご協力が得られた方々にご意見をお伺いする。
- 「対話の場」等へ関与されていない町村民の方々にも、お話をお聞きする機会をつくる。

【インタビュー対象候補（案）】

（※：協力打診前）

	対象者（カテゴリー）	目標人数	所属
寿都町	1. 「対話の場」現会員	17	・町議会議員 ・団体代表者
	2. 「対話の場」旧会員、退会会員	7	・町議会議員 ・団体代表者
	3. 関与されていない町民の方	※今後、協力打診	
神恵内村	1. 「対話の場」現委員	17	・団体代表者 ・公募等
	2. 「対話の場」旧委員	3	・村議会議員等
	3. 「対話の場」傍聴者	8	・村議会議員 ・村民の方々
	4. 関与されていない村民の方	※今後、協力打診	

「進め方」に関する第三者専門家による助言・アドバイスとその対応

- 第三者専門家からのご意見を踏まえ、以下の改善・対応（案）を検討。

【改善・対応（案）】

	助言・アドバイス	改善・対応（案）
①	【インタビュー役】 ➤ インタビュー役はNUMOでよいか	⇒ファシリテーターをインタビュー役とする ※個別インタビュー希望・フォローアップ時のみNUMO ※第三者専門家はオブザーバーとして同席
②	【質問項目の追加】 ➤ 地域における「対話の場」位置づけやどう認識されていたかも質問しては	⇒「対話の場」がどのような目的で開かれ、どのような性格の会議として、捉えられていたか、等の質問を追加
③	【インタビュー対象者の拡大】 ➤ 「対話の場」等の関与者以外の方も対象としてはどうか	⇒「対話の場」等に関与していない町村民の方々も対象に加えるよう今後、協力を打診
④	【インタビュー対象のバランス】 ➤ ジェンダーや年齢構成も考慮すべき	⇒既往の参加者構成からはやや限界があるものの協力依頼の際にはバランスを考慮する
⑤	【記録の確保】 ➤ インタビュー時の記録を残すこと	⇒相手先の了解の上、記録は保持 ※取りまとめの際は、個人が特定されない形で概要を示す
⑥	【地域での説明の仕方】 ➤ 評価のためと誤解を受けないように	⇒「振り返り」の趣旨が伝わるよう留意

<主なご意見>

- 課題や次地点につながる教訓を見つけるためには、「対話の場」と地域との関係性を「対話の場」関与者以外からの目で振り返ることが必要。
- 「対話の場」の目的や意味、地域でどう理解されていたのかを聞くことが重要ではないか。
- 「誰が」「誰に」ヒアリングをするのかが重要。NUMO職員2名若しくは、第三者とNUMO職員の2名ペアでヒアリングをしてはどうか。
- 信頼性の確保のためにも、録音(逐語録)及び可能な範囲での写真の記録は重要。
- 話しやすい環境にするために、グループインタビューを検討してもよい。またインタビューで話づらい方や「対話の場」関与者以外の方々からの声を拾うには、匿名式のアンケートを検討してみてもどうか。
- 「対話の場」関与者以外にも、直接インタビューにて声を聞くべき。協力依頼の際には、国からの指示があり、今回の経験を蓄積して生かすことを素直に伝える必要がある。
- ジェンダーバランスや年齢構成も考慮して、ヒアリングを行うべき。
- 2町村での「対話の場」は最初の事例。時間を掛けてしっかりと総括していくことが、次へつなげるには重要である。海外からもどんな地域対話プロセスなのかが注目されている。
- 地域の多様な声が集まった際やとりまとめの際には、第三者専門家が集まって議論する場があってもよい。